

佳作 ひとことで変わる物語



アニク ピトリアナ
ANIK PITRIANA
国籍 インドネシア
職種 食鳥処理加工業
実習実施者 株式会社熊本チキン
監理団体 協同組合アーバンプランニング

皆さんは新しい経験を求めたり、新しいことを学んだりするためにどこかへ行ったがありますか。また、それにどのように慣れていきますか。生きるためややる気を出すために大事にしている言葉はありますか。私はそのとき、いつものように働いていましたが、その日はリーダーが別の仕事に変えてくれました。今の仕事は前の仕事とは違います。前の仕事では先輩が若かったのですが今一緒に仕事をしているのはおばあさんです。はじめはリーダーが新しい仕事を教えてくれましたがずっとはいないので、隣のおばあさんに私の仕事が正しいかどうか聞きました。

1日中働くこともあります。実はその時とても退屈で疲れていて、繰り返しの仕事で眠ってしまいました。突然、隣のおばあさんは「どうしたの。お元気ですか。」と聞かれました。「はい。元気です。」と答えました。おばあさんは「幸せに仕事をしましょう。」と言いました。意味を考えると、おばあさんは「幸せに仕事をやると全てが楽になり、あっという間に時間が過ぎていく気がしない？」と笑顔で言いました。

私は仕事によく時計を見るので、隣のおばあさんに

恥ずかしいと思いました。おばあさんは会社で最年長で、体も若いころのようにまっすぐではありません。インドネシアでは、年をとった人は働きません。「なぜ年老いた人は家で休むことになっているのか、代わりに孫と一緒に時間を過ごすことになっているのか」と私は自問自答しました。休憩中、おばあさんと話したくて隣に座りました。おばあさんは「仕事はどう？」と聞きました。私は「まだ慣れていないが、頑張ります。」と答えました。それから毎日おばあさんと仕事をしています。が、時間を感じません。

おばあさんを見ると、インドネシアにいる私の祖母のことを思い出します。長い間離れていると懐かしく思います。会社のおばあさんに「おばあちゃんは何歳ですか？」と聞きました。おばあさんは「72歳です」と答えました。私はびっくりして「なんでまだここで働いているのですか？」と聞きました。「私はここで長い間働いていて、たくさんの友達がいますからね」。「でも、1日中立っていると足が痛くなりませんか？」私は休むたびに足をマッサージしながら座っているおばあさんを見たのでそう尋ねました。「家にいると友達がいないので退屈しますが、ここには友達がいるので楽しいですよ。」おばあさんの答えに私は感動しました。おばあさんは、「あなたはまだ若いので、出来るだけ経験をしてください」と言ってくれました私は「はいそうします。」と胸が熱くなりながら答えました。それから、私は自分の仕事に慣れ始めました。

新しい仕事とは新しいことを学ぶ機会を与えられるという意味です。そうすれば私の経験が増えます。ありがとうおばあさんあなからのひとは私にとって大きな意味でした。